

ARIBからの  
お知らせ

情報通信月間参加行事「電波の日記念講演会」開催のお知らせ

近年の情報通信技術の発展により、移動体通信の高度化と放送のデジタル化が促進され、電波利用システムは社会経済活動及び国民生活において必要不可欠なインフラとなっています。

通信関係においては、第3世代移動通信システムの加入数が既に7,000万加入を超え、第2世代から第3世代への移行も着実に前進しているとともに、ブロードバンドワイヤレスアクセス等の高度な無線通信システムの導入の準備が進められております。放送関係においては、昨年12月には全国都道府県で地上デジタル放送が開始されるとともに、ワンセグ放送も急速に普及しております。

このような情勢を踏まえ、社団法人電波産業会及び情報通信月間推進協議会では、6月1日の電波の日を記念して情報通信月間参加行事「電波の日記念講演会」を下記のとおり開催いたします。講演会では「電波利用の現状と今後の展望」をテーマとして、電波政策策定者、電気通信事業者、放送事業者及び無線機器製造業者の各分野から講師をお迎えして、それぞれのお立場からのご講演を頂きます。ぜひご参加下さいませよう、ご案内申し上げます。

なお、プログラム、交通案内図は同封の案内状をご参照下さい。

記

- 1 日時 平成19年6月5日(火) 13:10から16:00まで
- 2 場所 明治記念館「富士の間(1)」  
(東京メトロ 青山一丁目駅(2番出口)から徒歩6分、またはJR信濃町駅から徒歩3分)
- 3 実施機関 主催 社団法人電波産業会  
情報通信月間推進協議会  
後援 総務省(予定)
- 4 講師 総務省 総合通信基盤局 局長 森清氏  
日本電信電話株式会社 代表取締役副社長 山田隆持氏  
日本放送協会 理事 西山博一氏  
富士通株式会社 代表取締役社長 黒川博昭氏
- 5 参加者 電波の利用者、電波に関連する産業界及び一般の方々 250名

6 参加費 無料（事前登録制）

7 申込先 ARIBホームページの「セミナー・講演会等の申込受付」から

8 問合せ先 社団法人電波産業会 企画国際部 佐藤(正)、木村

TEL (03) 5510-8592 E-mail [denpanohi@arib.or.jp](mailto:denpanohi@arib.or.jp)

### 第66回規格会議開催のお知らせ

下記のとおり第66回規格会議を開催いたします。規格会議委員の皆様のご出席をお願いいたします。

#### 記

1 日時 平成19年5月29日(火)午後2時から4時まで

2 場所 東海大学校友会館 望星の間 (霞が関ビル33階)

東京都千代田区霞が関3-2-5

なお、議案はARIBホームページ (<http://www.arib.or.jp/>) の「お知らせ」に5月14日(月)頃に掲載しますのでご参照ください。

### 第132回技術委員会（通信分野）が開催される

第132回技術委員会（通信分野）が開催されましたので、その概要をお知らせいたします。

1 日時 平成19年4月25日(水) 午後2時から3時45分まで

2 場所 当会第4会議室

3 議事概要

- (1) 事務局から、衛星による緊急通報システムの高度化に関する調査研究会設置要綱(案)について報告があり、異議なく承認されました。
- (2) 事務局から、第7回日中韓情報通信標準化会議の結果について報告がありました。
- (3) 事務局から、2007年ARIB／ATSC定期会合の概要について報告がありました。
- (4) 事務局から、「高利得FWAシステムの技術的条件案」について報告がありました。
- (5) 事務局から、当会の平成18、19年度の事業スケジュールと最近の活動状況について説明がありました。

### 衛星による緊急通報システムの高度化に関する調査研究会設置のお知らせ

第132回技術員会で表題の調査研究会の設置が承認されましたので、その概要をお知らせいたします。詳細については後日、会員の皆様に資料を送付させていただきます。

## 1 背景

小型船舶の遭難事故及び山岳地帯での遭難などがクローズアップされている中、それらの通報手段として携帯電話頼りになっておりその危うさが指摘されている。大型商船ならびに航空機の遭難通信のためにCOSPAS-SARSAT衛星を用いた遭難通報システムとしてEPIRB（非常用位置指示無線機）ならびにELT（航空機用救命無線機）が義務化され使用されている。しかしこれらは大型で高価であるため、小型の船舶や個人で使用するには適さない。それを補うために、同じ衛星システムを使用した超小型無線機（PLB：救命用携帯無線機）が規格化されているが、使用にあたっては各国対応に任されている。

PLBの基本的な機能は外航商船で使用される衛星EPIRBと同じであるが、個人用救難機器として使用するため、小型で救命胴衣を始め、洋服、ズボン等のポケットに収納できる構造・寸法とすることで、小型船舶の海難時での使用に限定されず、登山者遭難等にも利用でき適応範囲が広い。

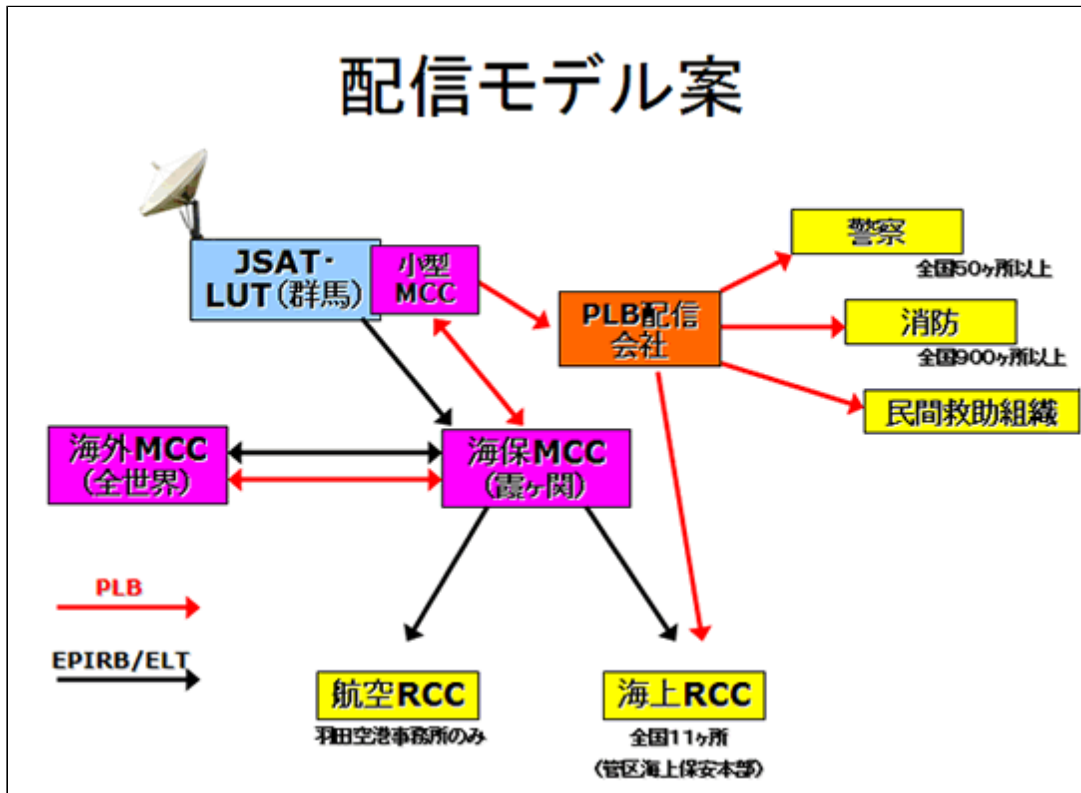
### 緊急通報無線機の種類

		<p>海外では5~6万円</p>  <p>(日本ではまだ使用不可)</p>
<p>EPIRB(非常用位置指示無線機) (Emergency Position Indicating Radio Beacon)</p> <p><b>船舶用</b></p>	<p>ELT(航空機用救命無線機) (Emergency Locator Transmitter)</p> <p><b>航空用</b></p>	<p>PLB(救命用携帯無線機) (Personal Locator Beacon)</p> <p><b>個人用</b></p>

## 2 目標

COSPAS-SARSAT衛星の通信設備が民間運用になる機会に、衛星の利用の裾野を広げるため、関係の企業・団体・官庁の協力を仰ぎ、PLBの日本における利用を促進するとともに民間による配信モデルの構築による国内の緊急通報システムの確立を図りたい。

# 配信モデル案



### 3 想定される利用者

我が国に登録されている小型船舶は約40万隻有り、それらは緊急通報を携帯電話に頼っている。また、最近の登山ブームにより初心者の登山者が増えている。したがって使用が簡便でかつ確実に何処からでも通報が出来るシステムの確立が必要と考えられる。

### 4 問合せ先 社団法人電波産業会 研究開発本部 航空海上G 有竹 信夫

TEL : 03-5510-8593

FAX : 03-3592-1103

E-mail : [aritake@arib.or.jp](mailto:aritake@arib.or.jp)

## 編集後記

当会の研究開発本部の前開発センター長、仲川さんが発案人となって、海外に対する見識を深め、職員相互の親交を深めるために開発センター職員を中心とした有志が一年に一度実施している、今年で第3回目となる海外旅行に参加して来ました。(1回目はタイ、バンコク 2回目はタイペイを訪問しました。)



マカオの語源となった媽祖閣にて

今年は4月20日から23日にかけて3泊4日で香港・マカオを職員とその家族総勢15名が旅行を楽しむことができました。筆者は海外の経験が乏しく、初めての香港、マカオ訪問でした。

入出国審査や通関手続きにドキドキしながら必死でみんなのあとをついて行き

ました。

職員の中にはマカオのシンボル、マカオタワー（高さ338m）にてカップルでスカイバンジーを体験する猛者がいて度胸のよさに感心しました。

また香港ではオープントップの2階建てバスで、屋根すれすれに思える看板を、まるでジャッキー・チェンさながらにくぐり抜けるバスツアーを体験したり、一人ではとつても来られない女人街の散策を仲間と一緒に堪能いたしました。

マカオのガイド楊さん、香港のガイド姚さん、それと今回の団長を務められた開発センターの相木さん他の旅行に同行くださったみなさま大変お世話になりました。



職員とその家族総勢15名



スカイバンジーの勇士

(澤井 利和)